

社会科学習指導案

指導者 田坂 郁哉

日時 令和4年11月19日(土) 第2校時 10:25~11:10
年組 小学校第6学年2組 計29名 (男子14人, 女子15人)
場所 小学校第6学年2組教室
単元 世界に歩み出した日本 ~新紙幣の肖像となる3人~

単元について

本単元では、2024年度から発行される新紙幣の肖像となる、渋沢栄一、津田梅子、北里柴三郎の功績を調べることを通して、当時の日本社会、国際社会について考える。渋沢栄一は、第一国立銀行をはじめとする500以上の企業の設立や運営に関わり、「近代日本経済の父」と呼ばれている。また、「道徳経済合一説」を唱え、経済活動において、公益の追求を尊重する「道徳」と、利益をあげることが目的である「経済」は、ともに重視すべきものでありどちらかが欠けてはいけなないと考えた。津田梅子は、日本初の女子留学生の一人として岩倉使節団とともにアメリカへ渡り、11年間の留学生活を送った。その後、日本へ帰国した彼女は、女性が自立するために専門的な知識を身につける教育が必要として、女子英学塾(現在の津田塾大学)をつくり、新しい女性教育に尽力した。北里柴三郎は、留学したドイツで医学を研究し、当時画期的だった破傷風菌の血清療法を生みだし、日本の医学が世界で認められるきっかけをつくった。日本に帰国後は伝染病研究所を設立し、伝染病の研究を進め、野口英世を始めとした世界で活躍する医学者の育成にも携わった。

日本の紙幣において、肖像となったことのある人物は18名である。どのような人物が選ばれるかについては、その時々日本社会の情勢が大きく関わっていると考えられる。財務省によると、近年の改刷では、①偽造防止の観点から、なるべく精密な写真を入手できること、②肖像彫刻の観点からみて、品格のある紙幣にふさわしい肖像であること、③肖像の人物が国民各層に広く知られており、その業績が広く認められていること、といった観点を踏まえて、明治以降の人物から採用されている。そして、今回取り上げる3人の選定については、「渋沢栄一氏、津田梅子氏、北里柴三郎氏は、それぞれの分野で傑出した業績を残すとともに、長い時を経た現在でも私たちが課題としている新たな産業の育成、女性活躍、科学の発展といった面からも日本の近代化をリードし、大きく貢献した」としており、残した功績の大きさもさることながら、その分野が現在の日本社会の課題にもつながる点が高く評価されたことになる。つまり、3人の人物の行った新しい産業の育成、女性の活躍、科学の発展は、近代化する明治維新後の日本と令和時代の日本とで時代は違えど、社会をより豊かにするための普遍的な価値をもつものであるということが分かる。

これらのことから、単元を通して、明治維新後、近代化の流れの中で我が国の産業や科学、文化が発展し、国際的な地位が向上したことを理解するとともに、彼らが紙幣の肖像となった理由を考えることにより、近代から現代、そして未来へとつながる社会における普遍的な価値について捉え、考えることをねらいとしている。

本学級の児童の実態は、次の通りである。社会科の学習を通して、資料やデータから当時の社会の様子や人物の功績を調べる場面で、「自分だったらどうするか」という視点で考えることで、当時の社会背景をより深く理解できるようにしたり、その上で人物の功績について吟味したりする機会を設けてきた。それにより、歴史に関心をもち自分なりの考えをもつことができる児童、資料から自分の考えの理由になる部分を示しながら人物について説明する児童が増えてきた。織田信長と豊臣秀吉、徳川家康の3人の武将を題材とした学習では、ジグソー学習に取り組んだ。「天下統一に向けて果たした役割が大きいのは誰か」という問いに対して、個人で追求しそれを友達に伝え合うことを通して、人物についてより詳細を調べたりまとめたりする必然性が生まれ、問いに対して主体的に学ぶ姿勢、協働的に学ぶ姿勢が見られた。また、市販ペーパーテストの知識技能の観点の到達度は学級全体で95%となっており、多くの児童が知識を身につけることができていると考えられる。一方で、学習において児童が自分の考えをもつ際、それは学習している時代においてのみに留まっており、現在の社会と比べたり、現在とのつながりについて考えたりする児童は一部である。本校社会科がめざす子どもの姿である「学習を通して身につけた社会の見方を、日常の社会生活の事象や問題に照らし合わせて考えながら、学習する意味や価値を実感できる子ども」が実現できているとは言いがたい。

指導にあたっては、第一次で単元を貫く問いを設定する。具体的には、まず 2024 年度から新紙幣に変わることについて、児童が自身の知識や考えを表出できるようにする。その中で、どんな人物がこれまで紙幣の肖像に選ばれてきたのかという問いが出てくることが想定される。そして、それを調べることで、過去に大きな功績を残した人物やよく知られた人物が選ばれていることに気づくことができるようにする。財務省の改刷基準を示しながら、「なぜこの 3 人が新紙幣の肖像に選ばれたのか」という単元を貫く問いを設定する。第二次では、単元を貫く問いを追求するために「3 人はどんな人物なのか」という問いのもと、3 人についてのジグソー学習を行う。まず、3（4）名のグループをつくり、誰について詳しく調べるか決める。そして、伝記や学習まんがといった資料やタブレットを利用して、それぞれの人物の功績や人物像について調べていく。その際、それぞれの人物がどのような考えをもちながら生きたのかという視点を大切にする。具体的には、渋沢栄一においては、公益を求める「道徳」と利益を追求する「経済」は、ともに重視しなければならずどちらかが欠けてはいけないという考え方である。津田梅子においては、女性の地位向上のためには、専門的な知識を身につけ自立できるようにする新しい教育が必要であると考えたことである。北里柴三郎においては、病気の予防に着目し医学を発展させた点や、日本に戻ってから伝染病研究所においてその後世界で活躍する医学者を輩出した点である。個人で調べる時は、同じ人物を調べた友達とその内容について交流することで、より人物について深めたり、自分にはなかった視点に気づいたりできるようにする。そして、第二次の最後に、初めにつくった 3（4）名のグループに戻り、ここまで自分が調べたことをプレゼンして伝え合う。説明したり聞いたりすることを通して、それぞれの功績や考え方について理解することができるようにする。第三次では、ここまでの学習をもとにして、「なぜこの 3 人が新紙幣の肖像に選ばれたのか」という単元を貫く問いについて個人やグループで考える活動を行う。その活動を通して、財務省の選定理由にあるように産業の発展、女性の活躍、科学の発展は、3 人が活躍した時代のみならず現在においても普遍的な価値として捉えられることに気づき、日常の社会と歴史を照らし合わせて考えることができる児童の育成をめざしたい。

指導目標

- ・資料やインターネットを活用して渋沢栄一、津田梅子、北里柴三郎の功績を調べたり、まとめたことを友達と伝え合ったりすることを通して、近代化する明治維新後の日本の中で、3 人が産業、教育、医学の発展に寄与したことを、児童が理解することができるようにする。
- ・渋沢栄一、津田梅子、北里柴三郎の 3 人が新紙幣の肖像に選ばれた理由を追及することを通して、児童が明治時代と現在の社会を比べたり、社会の発展における普遍的な価値について考えたりすることができるようにする。
- ・ジグソー学習を通して、児童が渋沢栄一、津田梅子、北里柴三郎の功績や新紙幣の肖像に選ばれた理由について、自ら進んで考えたり、友達と関わりながら追求したりすることができるようにする。

指導計画 全 7 時間（本時 第三次 第 1 時）

- | | | |
|-------|---|----------|
| 第 1 次 | 新紙幣の肖像となる 3 人
・紙幣の移りかわり
・これまで紙幣の肖像に選ばれてきた人物 | ・・・ 2 時間 |
| 第 2 次 | 渋沢栄一、津田梅子、北里柴三郎はどんな人物か
・ジグソー学習の説明とグループ分け
・個人による調べ学習
・同じ人物を調べている友達との交流
・グループ内でのプレゼンテーション | ・・・ 4 時間 |
| 第 3 次 | なぜこの 3 人が新紙幣の肖像に選ばれたのか
・これまでの学習をもとに単元を貫く問いを追求する | ・・・ 1 時間 |

本時の目標

これまでの学習をもとに、渋沢栄一、津田梅子、北里柴三郎が新紙幣の肖像に選ばれた理由を考えることを通して、明治時代と今の社会を比べ、社会の発展における普遍的な価値について考えることができる。

「教科等本来の魅力に迫るための教員の資質・能力」との関連

ジグソー学習において、児童が個人で調べたことを友達と伝え合ったり、お互いにまとめたことをもとにして単元を貫く問いを追求したりする場面を設定した。【授業構想力】また、児童にとってなじみのある紙幣の肖像を題材とすることで、興味をもって学習に向かうことができるとともに、学習したことと現在の社会とのつながりを考えることができる。【授業構想力】さらに、問いに対する追求場面で、現行の紙幣の肖像となっている人物の功績やその選定理由について考える活動を行い、児童の思考を広げたり、深めたりすることができるよう心がける。【授業実践力】

学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（評価◆）
1. これまでの学習と単元を貫く問いをふり返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">なぜこの3人が新紙幣の肖像に選ばれたのだろうか</div>	○ジグソー学習を行ったグループを活用し、児童が3人の人物について想起し、どのような功績を残したか、どのような考え方の人物かについてふり返ることができるようにする。
2. 単元を貫く問いに対してグループで考え、考えたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・明治時代は、鎖国していた江戸時代が終わり近代化する中で日本が大きく変わっていった時期であり、そのときに活躍した人物だから選ばれたのかな。 	○児童が思考しやすいように、3人の共通点や活躍した時代に着目するよう発問する。具体的には、なぜ3人も明治時代に活躍した人物なのかと発問することを通して、明治維新後世の中が大きく転換したこと、そしてそれをそれぞれの分野で支えたことに、児童が気づくことができるようにする。
3. 現行の紙幣の肖像となっている人物の功績と3人を比較して考え、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・樋口一葉と津田梅子は女性という共通点があるから、男女の平等や活躍する女性と言う点を意識したのではないかな。 ・野口英世と北里柴三郎はどちらも医学の発展に貢献した人物であることが理由かな。 ・福沢諭吉と渋沢栄一の共通点ってあるのだろうか。 	○福沢諭吉、樋口一葉、野口英世と新紙幣の3人を比較することを通して、女性、医学といった共通点を見つけたり、紙幣の金額による人選の意図を考えたりと、多角的に問いに対して考えることができるようにする。
4. 紙幣の肖像となる人物と今の社会の課題を関わらせながら考え、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・渋沢栄一は近代日本経済の父と呼ばれたけれど、経済の問題は今の日本が抱える問題でもある。 ・そう考えるなら、女性の地位向上や医学の発展も、今やこれからの日本の課題であるとも言える。 ・3人の選定理由には、今につながる課題につ 	○3人の選定についての財務省の回答を、「長い時を経た現在でも私たちが課題とする」という部分を穴あきで提示しながら、3人が活躍した分野において、現在の日本社会はどういう状況であるのか考えることを通して、3人の選定には、彼らの功績が現在の日本社会においても普遍的な価値であることに児童が気づくことができるようにする。 ◆渋沢栄一、津田梅子、北里柴三郎が新紙幣の肖

<p>いて明治時代から取り組み、功績を残したことが挙げられるんだね。</p> <ul style="list-style-type: none"> • これからも経済を発展させたり，女性の地位を向上したり，科学を発展させることは大切だね。 <p>5. 100年後の新紙幣の肖像になる人はどんな人物か考え，交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 産業の発展は，いつの時代になっても必要だと思うから，経済を大きく強くした人が選ばれると思う。 • インターネットがつくられて世界が大きく変わったから，そういう世界規模となる発明をした人が選ばれるだろう。 • 世界で起こる戦争や紛争の解決に貢献した人が選ばれるのではないか。 <p>6. ふり返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • いつの世になっても，豊かな社会にするために変わらないものがあることが分かった。 	<p>像に選ばれた理由を考えることを通して，明治時代と今の社会を比べ，社会の発展における普遍的な価値について考えることができる。</p> <p>○3人の功績が普遍的な価値をもつものであることを踏まえながら，100年後の新紙幣にはどんな分野での功績をあげた人物が選ばれるか考えることを通して，100年後の日本社会における普遍的な価値とはどんなものか想像できるようにする。</p> <p>○今回の3人について，100年後も普遍的なものであるかどうか考える。</p> <p>○明治維新後の近代化における価値と現代の価値，そして未来における価値についてまとめることを通して，過去から現在，未来へのつながりを感じることができるようにする。</p>
--	--

